

平成 27 年 「論語」に学ぶ人間学セミナー
ービジネスリーダーとしての生き方を求めてー[第 7 回]

- ・日時 平成 27 年 9 月 9 日 (水) 18 時 30 分～20 時
- ・会場 龍野経済交流センター 2 階会議所ホール (たつの市龍野町富永 702-1)
- ・内容 ①仮名論語 「述而第七」
②楽しい論語塾 「哲学者としての孔子 (3)」
③子々孫々に語りつぎたい日本の歴史
「東京裁判 勝者が敗者を裁くとはどういうことか」
- ・講師 英齋塾 (人間学探求) 塾長 三木英一氏
- ・受講料 無料 (教材費 2,000 円)
- ・参加者 61 名

○受講内容

今年には戦後 70 年の節目になります。姫路市遺族会会長でもある三木英一先生が 8 月 15 日に行われた、姫路市戦没者追悼式で述べられた追悼の言葉をセミナーの前に紹介して下さいました。戦争の惨禍、今後日本のあるべき姿等、先生の思いが込められている内容でした。

そして、仮名論語より「述而第七」の素読を行いました。

三木先生の追悼の言葉の後でほどよい緊張感の中、背筋を伸ばし読むことができました。

「憤せずんば啓せず。忤せずんば發せず。一隅を擧げて三隅を以て反らざれば、則ち復せざるなり」教養を身につけていく上で重要な言葉です。分からなければ何でもすぐに聞くのではなく、まずは自分自身で考え行動しようと思いました。

その後、楽しい論語塾より前回に続き「哲学者としての孔子(3)」の講義をしていただきました。「天何をか言うや、四時行われ百物生ず」この章句は、言葉で教えを述べ伝えているのではなく、言葉だけでは語りつくせないものがたくさんあるということを教え諭す貴重な一文です。例えば、人の思いは言葉を発しなくても行動や立ち居振る舞いとして出てくるものなど、すごく深みのある言葉だと思いました。

引き続き、子々孫々に語り継ぎたい日本の歴史から「東京裁判 勝者が敗者を裁くとはどういうことか」の講義をしていただきました。東京裁判の様々な問題点や、不平等な内容で、いかに国際法に違反している裁判か。占領下であった日本が思想言論統制をされていたこと等、時間を忘れるぐらい興味深い内容でした。グローバル社会の今日、日本人として日本の真実の歴史を学びそして他国に対して真実の歴史を語っていけることが必要だと思います。

今回のセミナーも時間の限られた中で、たくさんの方のことをわかりやすく講義していただき有意義な時間となりました。

次回、第 8 回も受講される皆様により良いセミナーとなるようお手伝いさせていただきながら、実のあるセミナーづくりを心がけたいと思います。